

# 症例検討会 H21年5月

(抗アレルギー剤の使用について)

平成調剤薬局 長良店

## 症例1 (生年月日: H11 性別: 男)

エバステル OD 錠 5mg の効きが悪くなったと感じたため、アレロック錠 2.5mg に変更した症例である。

### H21.2.24

- ① エバステル OD 錠 5mg 1T  
分1 夕食後 14日分

### H21.3.12

- ① エバステル OD 錠 5mg 1T  
分1 夕食後 21日分
- ② 小児用フルナーゼ点鼻液 25 $\mu$ g56 噴霧用 2.04mg4ml 1瓶  
点鼻 1日2回

### H21.4.10

- ① アレロック錠 2.5mg 2T  
分2 朝夕食後 14日分
- ② 小児用フルナーゼ点鼻液 25 $\mu$ g56 噴霧用 2.04mg4ml 1瓶  
点鼻 1日2回

## 症例2 (生年月日: S48 性別: 女)

タリオン錠 10 が効かなくなったため、アレロック錠 5 に変更した症例である。その後、アレロック錠 5 による眠気の副作用もなく、症状も軽減している。

### H21.2.16

- ① タリオン錠 10 2T  
分2 朝夕食後 14日分
- ② ミリカレット点鼻液 50 $\mu$ g56 噴霧用 4.08mg8ml 1瓶  
点鼻 1日2回
- ③ リボスチン点眼液 0.025% 5ml  
点眼 1日2回

### H21.3.2

- ① アレロック錠 5 2T  
分2 朝夕食後 14日分
- ② ミリカレット点鼻液 50 $\mu$ g56 噴霧用 4.08mg8ml 1瓶  
点鼻 1日2回
- ③ パタノール点眼液 0.1% 5ml  
点眼 1日2回

### 症例3 (生年月日：S61 性別：男)

アレグラ錠 60mg の効果が無く、ニポラジン錠 3mg + オノンカプセル 112.5mg に変更となる。

#### H19.3.2

- ④ アレグラ錠 60mg 2T  
分2 朝夕食後 14日分
- ⑤ アルロイヤナーザル 8.5mg 8.5g 1瓶  
点鼻 1日2回

#### H19.4.3

- ④ ニポラジン錠 3mg 2T  
オノンカプセル 112.5mg 4C  
分2 朝夕食後 14日分
- ⑤ アルロイヤナーザル 8.5mg 8.5g 1瓶  
点鼻 1日2回

### 参考) 処方医師の見解

薬剤使用による効果の強弱は下記の通りである。弱い薬→強い薬に変更する際には効果不十分のため変更することが多い。逆に強い薬→弱い薬に変更する際には眠気の副作用により変更することが多い。抗アレルギー薬に関しては効果と副作用はパラレルに現れる傾向があります。

効果不十分な場合に薬剤を重ねて使用することも多い。その場合、オノン又はシングレアを併用する。これらの薬剤は理論的には眠気の副作用がないため、併用しやすい。しかしながら、値段が高くなるため、患者さんと相談し、値段を気にする場合はニポラジンと併用する。気にしない場合は、その他の抗アレルギー剤と併用する。

オノン、シングレアの使い分けは、分2、分1の違いによる点だけである(オノンで調子の良い患者さんはそのまま継続している)

セレスタミンは頓服で使用し、1シーズンで20Tまでに抑えるよう指導している

点鼻液は、フルナーゼ点鼻液が瓶であり、評判が悪いので、基本的にはミリカレット点鼻液を使用している。ミリカレット点鼻液が無効又は1日1回使用を好む患者さんには、ナゾネックス点鼻液を使用する。

点眼液は、抗アレルギー薬を使用し、無効な時は、眼科へ行きステロイドの点眼液を処方してもらうよう指導している。ステロイドの点眼薬は処方しない。小児にはリザベン点眼液を使用することが多い。大人にはリボスチン点眼液又はパタノール点眼液を使用している。

症状別では、水鼻で、ブヨブヨした青白い粘膜をしているような通年性の鼻炎の場合は、オノン、シングレアを使用する。逆に花粉症のように赤い粘膜になっている症例には、抗ヒスタミン薬が有効である。

## よく処方される薬剤

### 内服

#### 抗ヒスタミン薬

強い①・・・アレロック、ジルテック、セルテクト

↑ ②・・・タリオン、ニポラジン

↓ ③・・・アレグラ、エバステル

弱い④・・・アレジオン、クラリチン

#### L T受容体拮抗薬

オノン、シングレア

#### T X A 2受容体拮抗薬

バイナス

#### ステロイド配合剤

セレスタミン

### 外用

ミリカレット点鼻液、フルナーゼ点鼻液、リボスチン点鼻液、インターール点鼻液

パタノール点眼液、リザベン点眼液、リボスチン点眼液

H21.5.18 作成